平成27年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢商業高等学校

No. 1

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	評価・集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善計画等）
1 生徒の学習意欲を高める授業を実践し、確かな学力と筋道を立てて書く力を育成する。	① 生徒に興味・関心を持って授業に取り組みせ、学力向上を図る。	教務課 全職員	授業がわかりやすいと感じる生徒の割合が、 A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	評価がC、Dの場合、授業方法及び内容を検討する。	前期、後期に全生徒にアンケート調査	B 生徒による授業評価 83% 学校評価アンケート 81%	前年度の授業評価は84%、学校評価では81%であり、数値的には変化はない。「授業に集中している」87%、「授業は充実している」83%と高い数値であることから、授業内容には満足感を得ていると思われる。 3年生では新教育課程の新しい科目（商品開発・電子商取引・広告と販売促進など）が入ってきたことで、教師がよく教材研究等を行った成果であると考えられる。 ただし、5%の生徒が「あてはまらない」12%が「あまりあてはまらない」と回答していることから、今後はこの数値を減らしていくよう改善していきたい。
	② 各種検定試験を通して学習意欲を高める。	教務課 商業科	3年生の1級3種目の取得者が、 A 160人以上である B 155人以上である C 150人以上である D 150人未満である	評価がC、Dの場合、指導方法及び内容を検討する。	2月に担当課で集計	A 3冠以上 164人合格	3冠以上の生徒の増加を目指した現行教育課程のもと、生徒の努力および教員の指導の工夫の改善などにより合格者は増加した。 次年度、2年生の3冠以上の取得者が約10名増加しており、若干の増加は見込める。課題は2冠までで終わる生徒の意欲向上をはかることである。
	③ ICTを有効に活用した授業を研究し、実践する。	教務課	ICTを有効に活用した授業を実践した教員の割合が、 A 70%以上である B 60%以上である C 50%以上である D 50%未満である	評価がC、Dの場合、改善策を検討する。	前期に中間集計、後期に最終集計	C 学校評価アンケート 66% 生徒による授業評価 51% (利用していない) 8名	教職員の学校評価アンケートでは前期の55%から伸びており、生徒による授業評価についても44%から伸びている。5月以降プロジェクトが新たに10機導入され、教室の遮光カーテンも設置されるなど、ICT環境の整備を行ったことが要因と考えられる。 理科では96%で活用していると評価されており、教科による差が顕著である。ICT活用講習会等を行い、活用していない教師を減らしていくよう努めたい。
	④ 授業やLHの中で文章を書かせる場面をより多く設け、「筋道を立てて書く力」を育成する。	各学年 教務課 各教科	「筋道を立てて書く力が向上した」と感じる生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価がC、Dの場合、方法及び内容を検討する。	前期、後期に全生徒にアンケート調査	C 学校評価アンケート 69% (1年66%) (2年61%) (3年79%)	「今年になって筋道を立てて書く力が向上した」と答える生徒の割合が3年生で高くなっている。 各種行事でメモを取らせる習慣づけが定着したこと、進学希望者の作文や小論文指導、就職希望者への履歴書指導やお礼状等の指導により、書く機会の増加が要因である。 2年生では上位の検定資格の取得を目指しているため、文章を書くことに費やす時間が少ないと思われる。
学校関係者評価委員会の評価		・検定合格者数の伸びは素晴らしい。授業におけるICT活用は、今後の教育の重要なポイントである。もっと積極的に取り入れてほしい。					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針		・ICTの活用については、教科間の格差を減らすとともに、環境整備も進めたい。					

平成27年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢商業高等学校

No. 2

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	評価・集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善計画等）
2 ビジネスマナー教育、実践教育、国際理解教育の更なる充実に取り組む。	① 相手の顔と目を見たさわやかな挨拶を日常的に実践し、社会に貢献できる生徒の育成に取り組む。	生徒指導課 特活課	年間を通して相手の顔と目を見たさわやかな挨拶ができた生徒の割合が、 A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	評価がC・Dの場合、指導方法を検討	前期、後期に全生徒にアンケート調査	A 学校評価アンケート A・B計 91% (1年91%) (2年90%) (3年92%)	昨年から取り組みを始め、アンケート結果では目標とした90%を超えているが、実感としてはまだ向上の余地はあると思われる。今年度は1学期に教職員による朝の挨拶運動を行なったが来年度以降も継続して実施していきたい。また、公安委員や生徒会等による挨拶運動は単発的であるという反省から、今年度3年生が9月に2週間ほど就職を見据えて挨拶運動を行なった。来年度は生徒の参加も増やしていきたい。
	② 生徒指導が主となり、公安委員・生徒会執行部と協力しながら遅刻0の徹底を推進していく。	生徒指導課	遅刻0の日が年間を通じて、 A 100日以上である B 80日以上である C 60日以上である D 60日未満である	評価がC・Dの場合、指導方法を検討	年間を通じて調査	B 3月末時点 110日	3月末時点で遅刻0の日数が110日となった。昨年は年間で71日となっており、昨年を大幅に上回るペースで推移している。今年度は玄関での登校時間を8時25分として5分前登校を実施したことが大きな要因である。時間を守り、規則正しい学校生活を習慣づけていくことが本来の狙いでもあり、遅刻を重ねる生徒には継続して指導していきたい。
	③ 実践教育とマナー教育の一環である金商デパートの運営に積極的に取り組む。	特活課	金商デパートにおいて、学校で学んだことを生かした生徒の割合が、 A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	評価がC・Dの場合、運営方法を検討	金商デパート終了時に、全生徒にアンケート調査	A 評価1+2 94%	アンケート結果では肯定的評価が94%であった。次年度は、全国産業教育フェア石川大会の一環として、産業展示館での開催となり、評価1・2で100%になるよう指導していきたい。
	④ 英会話力育成の充実に取り組む。	英語科	1・2年生で全商の英検2級を取得した人数が、 A 100名以上である B 80名以上である C 60名以上である D 60名未満である	評価がC、Dの場合、英語が必要であることを認識させるために講話等の内容や機会を検討する。	全商の英検2級の合格者を調査	A 第54回検定 18名 第55回検定 112名 総計 130名	9月の検定においては、夏季休業を利用して補習を行ったことと、12月検定においては各級別の単語リストを全生徒に配布して語彙力の伸長を図ったことで、良い結果につながった。次年度は、過去問の取り組みをさらに工夫し、語彙力テストも導入して英語力の育成につなげたい。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> ・他校に比べ、金商生の挨拶はすばらしいが、教員も含め現状に満足せずもっと上を目指してほしい。 ・グローバル人材育成に関する取り組みはすばらしいが、石川の歴史文化をもっと学び、石川の文化を発信できる真のグローバル人材の育成を目指してほしい。 					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		<ul style="list-style-type: none"> ・来年度の全国産業教育フェア石川大会に向け、しっかりと立ち止まって笑顔で挨拶できるよう挨拶徹底週間を設ける等指導していきたい。 ・3年計画でグローバルな観光人材養成事業を進めており、来年度も文科省の指定を目指し事業を発展させていく。文化都市金沢にふさわしい観光人材の育成を目指し教育課程の改定にも取り組んでおり、石川県の観光振興に貢献したい。 					

平成27年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢商業高等学校

No. 3

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	評価・集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善計画等）
3 生徒の希望する進路実現に向けて、各学年に応じた計画的なキャリア教育に取り組む。	① 企業ならびに同窓生と連携を深め、各種ガイダンス機能の充実と希望企業への実践的な面接指導を実施して、進路実現を図る。	進路指導課	ガイダンスや面接指導を通じて、希望の職種・業種への進路実現を達成できたという生徒が、 A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C・Dの場合、 取り組みを検討	後期に就職希望の3年生対象にアンケートを調査	A 生徒学校評価アンケートより 評価1・2 95%	2年次より進路ガイダンス、先輩（3年生）と語る会、分野別進路ガイダンスを実施し、業種・職種についての説明を早い段階から行ってきた。また、3年次においても企業や卒業生を職種・業種別に招き、ディスカッションを重ねるなど就職に関する情報を提供してきた。その結果今年度は北陸新幹線開業もあり求人数が増加し、生徒の希望職種への受験が可能となった。受験に向けても外部から講師を招聘（2回）し、面接指導を徹底して行い、OB・ジョブカフェなど外部と連携しさらに強化を行ったことにより希望の進路実現に繋がった。次年度に向けてはさらにミスマッチがないように指導等見直し充実させていきたい。
	② 補習やガイダンスの指導・働きかけを工夫、志望分野・志望校への進学意識を高める。	進路指導課	しっかりと目的意識と学習意欲を持って受験勉強に取り組み、学力向上に努めたと答えた生徒が、 A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C・Dの場合、 取り組みを検討	後期に進学希望の3年生対象にアンケートを調査	A 評価1+評価2：90%	3年生については年間5回の校内進路ガイダンス、3回の校外講師による進路ガイダンスと情報提供等の働きは十分に行われており、生徒のアンケート結果にも表れている。また、志望分野、進学校への意識を高める点においては多くの生徒が複数回、複数校へオープンキャンパス等へ参加していることからその意識は高いと思われる。一方、1・2年生は「情報提供への満足度」がいずれも70%台で、進路ガイダンスや進路情報提供が3年生に偏りがちなためと考えられる。来年度、1・2年生への情報提供をこまめに増やしていきたい。
	③ 1・2年次より、計画的にキャリア教育を行ない、進路実現に向けた取り組みを充実させる。	進路指導課 各学年	希望する進路の実現に向けて、具体的な進路希望が設定できたと答えた生徒が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	C・Dの場合、 取り組みを検討	後期に2年生対象にアンケートを調査	A 2学年進路希望調査 評価1 100%	2年生後期実施の進路希望調査の結果は、就職希望者が51.4%、進学希望者が48.6%であった。今年度前期取組は、就職希望者はインターンシップ、デュアルシステムを実施、進学希望者はオープンキャンパスの参加を実施した。後期には、1月に進路ガイダンス、2月に分野別模擬講義、「3年生と語る会」を実施した。年間を通しての計画的な取組が、生徒の進路希望を具体的に設定させることにつながったと考えている。 次年度は、さらに取組の内容を吟味し進路実現に向けての早期の意識付けを行っていく。
学校関係者評価委員会の評価		・進路実績も向上しているが、今後一層金商ブランドの価値を高めてほしい。					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針		・臨機応変に対応できる力を身に付けるため、インターンシップやデュアルシステムの取り組みを充実させるとともに、OB面接や講話等を通して諸先輩方が築き上げた伝統の重みを伝えていく。					

平成27年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢商業高等学校

No. 4

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	評価・集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善計画等）
4 心身の健康と豊かな人間性の育成に向けて、部活動、特別活動等の更なる充実に取り組む。	① 運動部の県大会において、優勝を目指す。	特活課	県大会でベスト4以上の運動部が、 A 9部以上である B 8部である C 7部である D 7部未満である	評価がC・Dの場合、指導を検討	大会報告書による調査	B 団体競技で8部 臨時部も含めば11部	今年度の各種大会で、駅伝・男子卓球・男子バレー・女子バレー・バドミントン・ソフトテニス・少林寺拳法・ソフトボールの8部が「ベスト4以上」を達成し、臨時部では、空手・男子新体操・馬術部の3部が上位進出を成し遂げ、昨年度に比べ躍進している。次年度に向けては、ベスト8のハンドボール部のあと1勝に期待したい。
	② 文化部・商業部の県大会（総文・新人）において団体優勝をのべ3競技以上を目指す。	商業科 特活課	県大会（総文および新人）で団体優勝をする競技が、 A のべ6競技以上である B のべ4競技以上である C のべ3競技である D のべ2競技以下である	評価がC・Dの場合、指導を検討	大会報告書による調査	A 県大会4部、新人大会6部	県大会では、珠算・電卓部で団体・個人優勝。ワープロ部個人優勝、かるた部団体優勝と昨年に比べ躍進した。商業部新人大会においては、全種目個人団体完全制覇と一層躍進した。
	③ 各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動等の充実、活性化を目指す。	特活課	各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動に自主的に取り組んだ生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価がC・Dの場合、活動内容や取り組み方を検討	後期に全生徒を対象にアンケート調査	B 評価1+評価2：77%	昨年度同様、各部活動単位でのボランティア活動を年2回実施するよう顧問に依頼したが、1月末で活動がなされていない部もあり、肯定的評価の割合が77%という回答結果になった。3月末までに実施してもらいボランティア精神を植え付けていただきたい。
	④ 校舎内の清掃をきちんと行い、節電・節水に努め、ゴミの分別をきちんと行う意識を全生徒がもち、自主的に行動することを目指す。	保健課	清掃をきちんと行い、節電・節水に努め、ゴミの分別をしっかりとできる生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価がC・Dの場合、指導を検討	後期に全生徒にアンケート調査	A 1年生：97% 2年生：94% 3年生：97% 平均：96%	毎日の清掃と毎週2回のゴミの収集をきちんと行い、美化委員会の協力の下ゴミの分別等がきちんとなされ、生徒の分別への意識も良好である。節電・節水に関しては、その年の気候によって変動が大きく影響されるので、今後の課題である。
学校関係者評価委員会の評価		・運動部だけでなく、27年度は商業部の活躍がすばらしいかった。					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針		・県大会の優勝で満足することなく、全国大会で入賞できるよう、高い目的意識を持たせたい。					